

福津における遥拝

沖ノ島は、福津・宗像沖にある聖なる島です。上陸できるのは、ここへ仕える一握りの神官に限られています。島と沖津宮神社に祀られている神の参拝者は、遠方から参拝(遥拝)をしなければなりません。

遥拝は、福津を含む宗像地域で広く行われています。宗像地域では、宗像三女神（辺津宮、中津宮、沖津宮に祀られています）が数千年にわたって崇められてきました。いくつかの遥拝所には建物があるものの、福津一帯の多くの遥拝所は、山腹や浜辺にある単に見晴らしのよい場所です。福津には、手光という集落や白石浜などに、いくつかの遥拝所があります。

20 世紀半ばまでは、田植えの終了時に、沖ノ島の神々を崇める儀式が広く行われていました。人々は、遥拝所で食べ物と酒を供え、田植えの成功を感謝し、豊作や豊漁と健康を祈ったのでしょう。これらの正式な儀式は今では一般的ではなくなりましたが、今でも須賀神社で行われており、地域の人々が参拝に訪れています。